

デジタル戦略

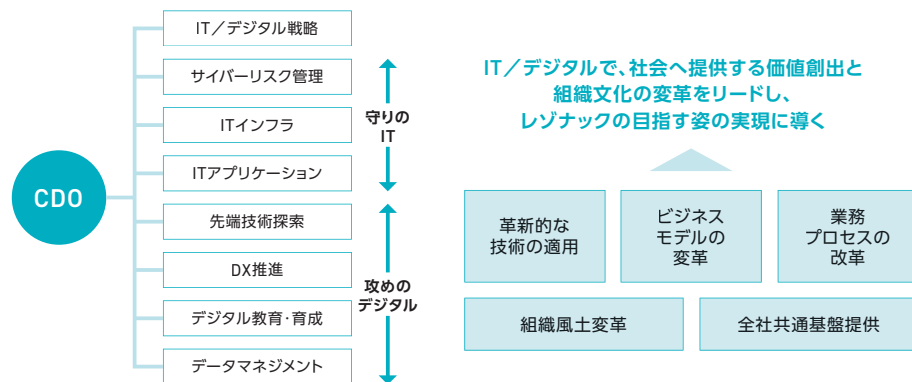
価値創造に向けた使命

当社は、デジタル技術とデータを、高度に、かつ徹底して活用することで、社内および社外との業務プロセスを進化・洗練させ、組織文化の変革をリードします。また、要となるデジタル人材の育成と適切な配置によって、継続的に業務を改善・変革し、あらゆるステークホルダーとの共創と社会価値創造に貢献していきます。

方針と推進体制

当社は、DX基本方針として「業界トップクラスのデジタル技術の活用により、競争力の向上と社会価値創造に貢献すること」を掲げています。つまり、デジタル技術を徹底的に活用できる環境を整備し、人材育成を進めることで、グループのイノベーション力、事業開発力、競争力を強化します。CDO組織の8つの部が目的・課題に応じて密に連携し、当社の目指す姿である「世界で戦える会社」「持続可能なグローバル社会に貢献する会社」「国内の製造業を代表する共創型人材創出企業」の実現を目指します。

そのため、①デジタル部門の高度人材育成、②社内のデジタル環境の整備、③業務プロセスの標準化と、本社横断的なデジタル技術活用による業務プロセスの進化・変革、④戦略的なデジタル投資を進めるため、ガバナンスと効果のモニタリングを行う経営層による会議体の運営、を推進します。

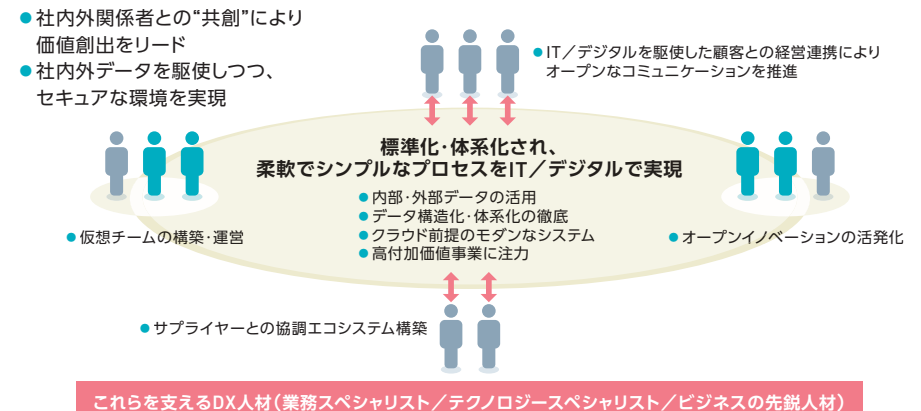


デジタル変革における戦略

当社の業務システムをオープンでセキュアなモダン型のアーキテクチャに刷新し、有機的につなげることで、業務プロセスを見える化し、あらゆる業務のデータを管理できる状態を目指します。ここで得られたグループ内のデータと、デジタル技術の活用によって業務プロセス全体における課題や今後の展望を分析し、社内および社外との業務プロセスを進化させ続けていきます。

また、こうしたDXの実践に必要な人材のタイプとして、ハイレベルな業務スペシャリスト・テクノロジースペシャリスト・ビジネスの先鋭人材の3タイプに定義し、スキル育成に注力します。そして、グループ全体で共通するDXに向けた課題を明確化し、テーマによって適任な人材を割り当てて迅速に推進していきます。

IT/デジタル戦略で競う統合新会社の姿



デジタル戦略

長期ビジョン実現へのロードマップ

| 2022年実績 | 2023年計画 | ありたい姿(2030年) |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> デジタル人材の積極採用を開始 データドリブン経営に向けたDX戦略を策定し、業務、ルール、データを標準化・体系化する活動(RWT)を立ち上げ | <ul style="list-style-type: none"> RWTでの経営管理情報の見える化と分析を開始 IPA(独立行政法人 情報処理推進機構)が提唱する「iコンピテンシ ディクショナリ」を活用し、重要テーマのノウハウを有する人材を集約・育成 AMI社の高度デジタル人材を戦力として活用 P88 | <ul style="list-style-type: none"> あらゆる事業・業務でデジタル変革を進め、2030年には、当社の競争力ではないノンコア業務領域を自動化している 競争力の源泉であるコア業務にリソースを集中し、デジタル技術を活用してステークホルダーとの共創を進め、高い社会価値の創造に貢献している |

レゾナックのDX事例(関連ページ・ウェブサイトへのリンク)

| 分類 | タイトル | 関連 |
|------------|---|----------------------------|
| 革新的な技術の適用 | データの収集から整形、蓄積、AI解析まで、一気通貫して行えるデータパイプラインを構築 | P67 WEB |
| | 米Qsimulate社と材料開発における量子科学計算ワークフローの工数を半分に削減できるシステムを開発 | P67 WEB |
| | 米Enthought社とのMI推進プログラムを開始 | P67 WEB |
| | MIによるモビリティ材料の開発力強化 | P82 |
| 業務プロセスの改革 | デジタルマーケティングの推進 | P70 |
| | 半導体サプライチェーンの情報を一元管理するデータベースを構築 | P80 |
| ビジネスモデルの変革 | AMI社を通じた電炉操業デジタルソリューションの提供 | P88 WEB |

マテリアリティの重要項目(KPI)の目標と実績

[P58](#) / マテリアリティと非財務KPI

| 2025年目標 | 2022年実績 |
|--|---|
| データドリブン経営 <ul style="list-style-type: none"> 財務データの標準化構築の完了、全社標準のデータ分析基盤の構築 ESGデータの取得プロセス構築 | <ul style="list-style-type: none"> 可視化・分析ソフトウェアの利活用を開始 RWT活動の立ち上げ |
| DX推進とプロフェッショナルの育成 <ul style="list-style-type: none"> CoE組織と事業部が対になり、プロジェクト推進 | <ul style="list-style-type: none"> DX推進部をハブとする組織横断的な体制始動 デジタル/DX推進人材の即戦力採用による強化 |
| IT/デジタルリテラシー向上 <ul style="list-style-type: none"> 全従業員のデジタル体験、教育 | <ul style="list-style-type: none"> 教育育成を担える体制整備 |

Resonac Way Transformationを始動

Resonac Wayとは、当社従業員が目指す姿と本質的な仕事の進め方です。2022年から“Resonac Way Transformation (RWT)”と称して、グループ全体で「レゾナックとしての言葉の定義統一」、「業務プロセスの標準化」、「データの構造化」への取り組みをスタートしました。言葉の定義が異なることで生じる誤解や手戻り、また業務プロセスが異なることで生じる非効率さをできる限り排除し、データを構造化して素早い意思決定が行える基盤を作ることを目的としています。

従業員が自律的にかつ、効率的に、本質的な仕事に集中できる環境・土台を作っていけるよう、事業・地域の枠を超えてRWTを推進していきます。2023年中に、経営管理情報の見える化と分析を推進し、経営の意思決定の迅速化・高度化を実現します。

TOPICS 社内SNS(Workplace)の活用による生産性の改善

DX

製造拠点の現場作業員および管理監督者の間での迅速な情報共有を目的に、企業向けSNSツールであるMeta社のWorkplaceの活用が、国内の製造拠点を皮切りに広がっています。

これまで製造現場では、紙、ホワイトボード、電話などが主な情報伝達手段で、作業員はパソコンを持っていません。そのような製造現場の作業員に対し、情報セキュリティが保てるように設定したスマートフォンやタブレットを支給することで、安全にWorkplaceを利用することができます。

これによって、作業のノウハウや現場で起こったトラブル情報などが、画像や動画などと共に共有できます。装置停止などのトラブルに対して、監督者がどこにいても素早く指示・対応することで、素早い復旧が可能となります。こうした取り組みを通じて、生産性の改善や残業の削減などの効果事例が次々と生まれています。